

大地震を想定した実践的な 防災訓練を実施

太田ガス事業(協)

2月7日、太田市・いずみ団地において、防災訓練を実施した。日本コミュニティーガス協会関東支部群馬県部会が毎年開催しており、今回は当組合が担当となり、訓練内容を設定した。

想定したケースは、太田地区内で震度5強以上の地震が発生し、ガス工作物に設置した感震遮断装置が作動した状況。一部の組合員は、事前に与えられた役割に基づき各自作業を実施。その他の参加者は、埋設管の気密試験、仮設ポンベの設置、埋設管のバルブの開閉、安全確認後の遮断装置の解除の実演や、ガスの圧力や漏えいを遠隔で監視するシステムを順に見学し解説を受けた。

最後に、避難所となる公民館で、段ボールベッドや簡易トイレ、ろ過装置を確認し、避難所生活へのイメージを深めた。



埋設管の気密試験



ガス調整装置

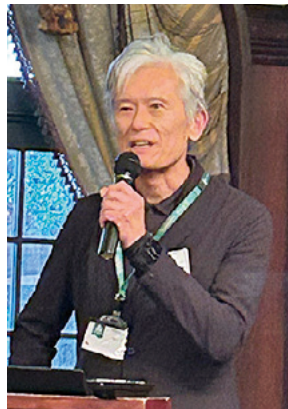
ビジネスの進化についていくために 生成AIの使い道を知る

群馬県室内装飾事業(協)

2月7日、高崎市・ザ・ジョージアンハウスにおいて、生成AIについて講習会を開催。講師は、群馬産業技術センター・細谷肇氏。

細谷氏は、生成AIを使うメリットや良い指示の出し方、活用できる場面などを、実際のAIとの問答の結果を紹介しながら、解説した。

そして、「AIは進化が早いので、乗り遅れないように、とにかく試してみたい」と呼びかけた。



細谷氏



全ぐんま近代こけしコンクール

群馬県こけし(協)

2月8日から10日の3日間、前橋市・群馬県庁県民ホールにおいて、第65回全群馬近代こけしコンクールの作品展を群馬県との共催で開催し、多くの来場者で賑わった。

出品は「創作こけし」「新型こけし」「木地玩具」「一般(アマチュア)」の4部門に分かれ、約300点が展示され、うち36作品が受賞した。

最優秀賞の内閣総理大臣賞には、沖泰宣氏の「桜鬼」が選ばれた。写真は群馬県中小企業団体中央会長賞を受賞した五十嵐祐介氏の「グラス型小物入れ」(木地玩具部門)。綺麗な曲線で磨き上げられた木製グラスの上には、愛らしいこけしが描かれた蓋が載せてある。



会場には、アマチュア部門の一生懸命作った作品から、熟練の技術が散りばめられた作品、若い作家の感性が光る作品まで幅広くあり、来場者は、丹念に作られた作品をじっくり見ながら、自分のお気に入りを探していたようだった。



作品を鑑賞する来場者(左)
中央会長賞「グラス型小物入れ」(五十嵐祐介氏作)(右)

Local Area News

Z世代の特徴を活かした 人材育成を学ぶ

群馬デリカ食品(協)

2月14日、前橋市・群馬県勤労福祉センターにおいて、「Z世代の特徴を活かした人材育成のポイント」と題し、講習会を開催した。講師は、社会保険労務士の関本誠氏。

関本氏は、はじめにZ世代の特徴について説明。加えて、特徴を活かした人材育成のポイントとして、主体性を引き出すこと、過去の成功事例を押し付けないこと、成長を実感できる機会を設けること等があり、意識して実践してほしいと説いた。

また、「Z世代には働くことはつらいことだけでなく、面白いことだと仕事を通じて伝えてほしい」と話した。



熱心に耳を傾ける参加者

伝統と革新技術を視察

壮駿会

2月15日、富山県高岡市・株式会社能作を訪れ、工場見学を含めた視察研修会を実施した。

壮駿会では、群馬県中小企業団体青年協議会の活動に参加したOBが、退会後も知識並びに情報の交換等の場として、親睦や交流等を図っている。

中央会主催のトップセミナーにおいて、株式会社能作の能作千春社長による講演を聞いたことをきっかけに、今回現地での工場見学を企画。

能作社長との挨拶を交わしたのち、錫や真鍮を用いた製品の製作方法等を見学し、鋳物の歴史や職人技術の魅力を感じた。

社員の方から鋳物製品の説明を受ける参加者



工場内を見学し錫の加工技術を体感

「怒り」との付き合い方やハラスメントへの対応について習得

群馬県バス事業(協)

2月18日、前橋市・群馬県交通運輸会館において、「アンガーマネジメントについて～あおり運転の心理描写と対策及びハラスメントへの対応～」と題し、講習会を開催した。講師は、臨床心理士・公認心理師の畠山正文氏。

畠山氏が、「怒り」について心理学的に解説したのち、参加者は「怒り」のチェックリストに取り組み、自身の攻撃性等の傾向をつかんだ。その後、「怒り」との付き合い方、乗客とのトラブル対応について学んだ後、具体的な事例について他の受講者と意見交換を行った。



あおり運転への対応・対策に理解を深めた